2019年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	情報メディアと社会 (Media technology & Society)		
ナンバリングコード	P10901	大分類 / 難易度 科目分野	情報メディア学科 専門科目 / 基礎レベル eビジネス論
単位数	2	配当学年 / 開講期	1 / 前期
必修・選択区分	コース必修:情報コミュニケーションコース 選択:情報工学コース、メディアデザインコース、こども・情報教育コース		
授業コード	P090101	クラス名	
担当教員名	高　文局		
履修上の注意、 履修条件	特にありません。 プリントの配布や課題があります。遅刻・欠席をしないよう心がけてください。		
教科書	別途指示します。		
参考文献及び指定図書	『電子社会論』遠藤　薫　著、実教出版 『メディア論』吉見俊哉、水越　伸　共著、放送大学教育振興会 『メディア・プラクティス』水越　伸・吉見俊哉　編著、せりか書房		
関連科目	【後修科目】 情報メディアと法・倫理		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	①「情報化社会」を理解する。		10点	10点
【知識・理解】	②「インターネット空間」の特徴を理解し、eビジネスの可能性と課題を認識する。	40点		
【技能・表現・ コミュニケーション】				
【思考・判断・創造】	③メディアリテラシーを正しく理解し、自分の行う表現活動の社会的意味を認識する。 ④情報化社会における「情報倫理問題」「人権問題」「著作権問題」などを理解する。	30点	10点	

○到達目標に対する到達度の目安、および、成績評価の補足

・レポートは、授業時に指示される記載注意事項に従って、Word文書として作成し締切日まで提出してください。すべて提出した場合は、評価の対象とします。

・授業に欠席や遅刻・早退せずに、意欲的に取り組んだ場合、評価の対象とします。

○授業の目的・概要等		
授業の目的	この科目の目標は、社会システムの急速な変革が進む中、情報社会という視点がなぜ重要なのかを理解すると同時に、今日における様々な社会問題などをグローバルな観点から捉えることのできる能力を養うことにあります。	
授業の概要	スマートフォンやタブレットPCなどの普及に伴い、インターネット空間が新たな市民参加空間としてその影響力を増しています。この科目では、主にインターネット空間を中心として行われる一般市民の「メディア実践」をオンライン・ジャーナリズム的観点から考察することを主な目的とします。そのために、コミュニケーション空間における私たちの位相の変化について学び、ソーシャルメディアなどの特徴やそのオルタナティブ・メディアとしての可能性や課題、さらには著作権などの問題についても議論します。また、配布資料の概説などを通して、授業内容や課題のフィードバックができるようにします。	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3)アクティブ・ラーニング	「該当しない」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目		

○備考欄

・本授業は、教員の教育活動を補助し、学生に対するきめ細かな指導を行うために「SA」の配置を予定しています。

・欠席・遅刻はしないように心掛けましょう。止むを得ず欠席・遅刻をする場合は、事前に担当教員にメールなどを通して連絡してください。また、担当教員の研究室に寄り欠席した日の資料を受け取ってください。

2019年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画　科 目 名 ： 情報メディアと社会（Media technology & Society ）　授業コード：P090101
担当教員： 高　文局

学修内容

1. 「スタートアップセミナー」

予習：（約2.0h）
復習：（約2.0h）

2. ガイダンス
授業内容と講義の進め方や評価方法などについて、ガイダンスを行ないます。

予習： シラバスを参考にして授業内容などについて調べておく。（約2.0h）
復習： 授業の進め方や評価方法などについて理解する。（約2.0h）

3. 情報化社会を理解する（1）
「情報化社会」を正しく理解するために、基本となる概念や「情報化社会」に対する既存の概念定義を考察し、その内容と問題点などについて学習します。
・「情報」とは？（情報の語源的な意味、データ・情報・知識の関係、情報の性質や機能など）
・「情報化社会」の概念定義と問題点

予習： 情報化社会の特徴などについて調べる。（約2.0h）
復習： 情報化社会を理解する。（約2.0h）

4. 情報化社会を理解する（2）
「情報化社会」を正しく理解するために、基本となる概念や「情報化社会」に対する既存の概念定義を考察し、その内容と問題点などについて学習します。
・「情報化社会」の再考
・情報化の「光の部分」と「影の部分」

予習： 情報化社会の光の部分と影の部分について調べる。（約2.0h）
復習： 現代社会における情報化について、さらに情報化の「光の部分」と「影の部分」について理解する。（約2.0h）

5. インターネット空間を理解する（1）―インターネットとコミュニケーション
ここでは、まず「インターネット空間」を理解するための基礎知識を学習することにしましょう。
・人間とコミュニケーション（メディアとコミュニケーション様式）

予習： インターネットとコミュニケーションについて考える。（約2.0h）
復習： インターネットとコミュニケーションについて理解する。（約2.0h）

6. インターネット空間を理解する（1）―インターネットとコミュニケーション
ここでは、まず「インターネット空間」を理解するための基礎知識を学習することにしましょう。
・マス・メディアと社会（大衆、群集、公衆について、マス・コミュニケーション効果研究など）

予習： マス・メディアについて、その特徴や効果などを調べる。（約2.0h）
復習： マス・メディアの効果研究について理解する。（約2.0h）

7. インターネット空間を理解する（1）―インターネットとコミュニケーション
ここでは、まず「インターネット空間」を理解するための基礎知識を学習することにしましょう。
・インターネット空間の理解（双方向性、匿名性、「公共圏」概念などについて）

予習：「公共圏」という概念について調べる。（約2.0h）
復習：「公共圏」概念を理解する。（約2.0h）

8. インターネット空間を理解する（2）―事例を通して考える「インターネット空間」の可能性と課題
ここでは、IT先進国といわれる韓国の情報化を事例に、インターネット空間の可能性と課題を考察します。
・オルタナティブ・メディアの可能性

予習： オルタナティブ・メディアについて調べる。（約2.0h）
復習： インターネット空間の可能性と課題について考える。（約2.0h）

○授業計画　科 目 名 ： 情報メディアと社会（Media technology & Society ）　授業コード：P090101
担当教員： 高　文局

学修内容

9. インターネット空間を理解する（2）―事例を通して考える「インターネット空間」の可能性と課題
ここでは、IT先進国といわれる韓国の情報化を事例に、インターネット空間の可能性と課題を考察します。
・メディア・プラクティス　―「オンライン・ジャーナリズム」

予習： オンライン・ジャーナリズムについて調べる。（約2.0h）
復習： インターネット空間の可能性と課題をオンライン・ジャーナリズム的観点から理解する。（約2.0h）

10. インターネット空間を理解する（2）―事例を通して考える「インターネット空間」の可能性と課題
ここでは、IT先進国といわれる韓国の情報化を事例に、インターネット空間の可能性と課題を考察します。
・韓国の情報化と「ソーシャル・メディア」

予習： ソーシャルメディアについて調べる。（約2.0h）
復習： ソーシャルメディアの特徴や可能性について考える。（約2.0h）

11. インターネット空間を理解する（3）―インターネットビジネス
インターネットにより容易に必要な情報を検索することができるようになり、消費者が商品を購入する場合においても、まずインターネットから情報を得て、その情報を基にして商品を選択・購入するという新しい消費行動スタイルに変わりつつあります。また、企業においても広告宣伝や商品の販売などで、インターネットを活用した新しいビジネススタイルが生まれてきています。ここでは、インターネットによりどのようなビジネスが生まれてきたか、インターネットがビジネスのやり方をどう変えつつあるかを学びます。

予習： インターネットビジネスについて調べる。（約2.0h）
復習： インターネットビジネスについて、具体的な事例を挙げながら説明できる。（約2.0h）

12. インターネット空間と「私」（1）―メディア・リテラシーとは何か
メディア・リテラシーとは、人間がメディアを介して情報を批判的に受容、解釈すると同時に、メディアを選び、使いこなして自らの考えていることを表現し、コミュニケーションの回路を生み出していくという、複合的な活動のことです。ここでは、メディア・リテラシーの系譜とその定義をメディア使用活動、受容活動、表現活動という3つの次元において整理してみます。さらに、メディア・リテラシーという営みが抱えている根本的な問題や今日のようなメディア社会において、メディアと関わる新しい人間像についても考えてみます。

予習： メディア・リテラシーについて調べる。（約2.0h）
復習： メディア・リテラシーについて説明できる。（約2.0h）

13. インターネット空間と「私」（2）―メディア・リテラシーとは何か
メディア・リテラシーとは、人間がメディアを介して情報を批判的に受容、解釈すると同時に、メディアを選び、使いこなして自らの考えていることを表現し、コミュニケーションの回路を生み出していくという、複合的な活動のことです。ここでは、メディア・リテラシーの系譜とその定義をメディア使用活動、受容活動、表現活動という3つの次元において整理してみます。さらに、メディア・リテラシーという営みが抱えている根本的な問題や今日のようなメディア社会において、メディアと関わる新しい人間像についても考えてみます。

予習： 今日におけるメディア・リテラシーの変容と可能性や課題について調べる。（約2.0h）
復習： メディアと関わる新しい人間像について、メディア・リテラシーの観点から説明できる。（約2.0h）

14. 情報化社会と「情報倫理」（1）
ここでは、「情報倫理」を取り上げ、情報化社会におけるさまざまな課題や解決策について考えてみましょう。
・「情報倫理」とは？
・「知的所有権」について

予習： 情報倫理の必要性と知的所有権について調べる。（約2.0h）
復習： 情報化社会と「情報倫理」について理解する。（約2.0h）

15. 情報化社会と「情報倫理」（2）
ここでは、「情報倫理」を取り上げ、情報化社会におけるさまざまな課題や解決策について考えてみましょう。
・事例を通して考える「情報化社会の課題と解決策」

予習： 著作権について調べる。（約2.0h）
復習： 知的所有権について、具体的な事例を挙げて説明できる。（約2.0h）

16. 期末試験
これまでの講義内容を範囲とした小論文形式の試験を行います。

予習： 期末試験に備え、学習した内容を整理する。
復習：